

## (熊本県立御船高等) 学校 令和 6 年度 (2024 年度) 学校評価表

## 1 学校教育目標

熊本県教育振興基本計画と本校建学の精神である三綱領「誠実以て人に接す」「自ら進んで学を修む」「自律以て己を処す」に則り、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」の教育行動指標を踏まえ、『生きる力』の育成を図る。

全職員による「参画と協働」の指導体制のもと、小・中・高・大の連携及び家庭・地域社会との連帯を図るとともに、特色ある学校づくりに努める。

- 主体性とリーダーシップ
- チャレンジ精神とあきらめない心
- 思いやりと感謝の心

## 2 本年度の重点目標

「感性と技と志」が育つ御船高校

- 主体的に学ぶ力の育成  
個別最適な学びと協働的な学びの実現
- 体験に基づいた学習と探究学習の実践
- 社会的・職業的自立に必要な能力育成とキャリア教育の充実
- 自尊感情と船高生としてのプライドの醸成  
自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する人に
- 健康・安全教育の徹底

## 3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	各学科・コース、学校行事の充実が図られている。	<p>○学校の教育目標に基づき学科・コースでは特色ある教育活動を実践し、学校行事は生徒主体で行う。</p> <p>○積極的なDX化推進を図る。</p>	<p>・本校のグランドデザインを見える化し学校の目指す姿を共有する。</p> <p>・県立高校魅力化きらめきプランによるプロフェッショナルハイスクール及びOne Teamプロジェクトを展開する。</p> <p>・DX加速化推進事業によるデジタル環境整備を進めるとともに、文理横断型の学習を進める。</p>	B	<p>○育成を目指す資質能力を考える職員研修を、外部講師を招き実施。今後学校ビジョンの構築を目指す。プロフェッショナルハイスクール、One Teamプロジェクトは着実に展開している。DX化におけるデジタル環境整備は進行中である。総合的な探究の時間について、データサイエンスを含む内容の再構築へ着手している。</p> <p>●今後更なるDX化推進へ向けた具体的な実践が必要である。</p>
	学校の魅力発信・生徒募集	積極的な学校の魅力発信及び生徒募集の取組が行われている。	<p>○定員充足率アップ(R6…全体68.6%、1学年普通科123組63.3%、芸術コース65%、電子機械科97.5%)。また普通科3クラスの充足率を昨年度比5%増加させる。</p>	<p>・学校紹介動画を作成しSNS(YouTube、Instagram等)を活用した広報活動を展開する。</p> <p>・中学生体験入学における学科・コース別の説明・体験の内容を充実する。</p> <p>・学校パンフレット(全体、電子機械科、芸術コースの3種)及び学校行事・個別相談会等のポスター等を作成し、積極的な広報活動を実践する。</p>	A	<p>○SNSを活用し積極的に本校の魅力を発信した。また様々な場面で、生徒及び職員が主体的に本校の強みをPRした。</p> <p>○中学生体験入学を「説明」「体験」と2日に分けて実施したことで内容の充実を図ることが出来た。</p> <p>○学校HPブログ更新の当番を事前に周知し全職員で取り組んだ。閲覧数が増加している。</p> <p>●充足率アップへ繋げるため中期的な視点で取組を継続することが必要である。</p> <p>●学校HP内で、ほとんど更</p>

						新されていない項目があり検討の必要がある。
	業務改善・働き方改革	超過勤務時間への対策及び業務の効率化が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○超過勤務時間の月平均27時間以下（R5月平均29.9時間）年休取得15日を目指す。</li> <li>○各行事、会議等は効率的な時間設定、運営を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業医による指導助言の基準を定めた御船高校ルール、定時退勤日、部活動時間の順守、その他各施策を職員と共有し実践する。</li> <li>・各種会議は実施時間及び場所を月行事予定表に記載する。会議資料は事前に担当者へ配布する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○左記取組が定着している。今後更なる改善を図るとともに外部講師による校内研修を企画し職員が意識改革する機会を設定したい。</li> <li>●職場の働きやすさを問う職員アンケートでは、昨年と同じく3.0ポイントであった。超過勤務時間（4月～12月の月平均）29.3時間。年休取得（本採1月～12月）14日と改善されたが目標には届かなかった。</li> </ul>
学力向上	授業改善・授業力向上	生徒全員の「わかる」「できる」を目指した授業づくりが行われている。	○授業ユニバーサルデザイン化に全ての教員が取り組み、ICT機器の活用95%以上を達成し授業評価のICT活用の評価値を上昇させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の共通取り組み事項を設定した授業のユニバーサルデザイン化にICT活用による、個別最適な学びと協働的な学びの視点を加えた授業研究週間の実施。</li> <li>・ICT活用やAL型授業の研修の充実と実践促進のための支援。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究授業週間を2回実施し全教科でICTを活用した研究授業及び合評会を行った。</li> <li>○ICTを活用した協働学習や観点別評価について実践的な職員研修を実施しICT機器の活用100%を達成した。</li> <li>○教師による授業アンケートでは4段階評価で3.56と5年連続の上昇となっており、10項目全てで過去最高の結果となった。</li> </ul>
	学力・学習力の向上	自ら学び続け、自己更新を続けることができる力を培う学びのサイクルを実現している。	○授業評価における、授業規律、学習への意欲、生徒間で話し合い考える協働的な学び、自分の考えを説明するなどの言語活動などの項目について、評価値を上昇させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別最適な学びの充実として、オンライン学習教材及びデジタル採点・分析システムを導入して活用する。</li> <li>・ICT活用による学習意欲への喚起、基礎学力の定着を図る授業展開、課題の工夫、学び直しの個別の支援を行う。</li> <li>・ルーブリック評価による授業目標の設定により達成感・成就感を得られるための支援を行う。</li> <li>・「主体的、対話的で深い学び」の視点から、ICTを活用した授業実践に取り組む。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度よりオンライン学習教材及びデジタル採点・分析システムを導入して活用した。</li> <li>○生徒による授業アンケートは4段階評価で平均が3.51であり、特に「始まりと終わりの挨拶はチャイムどおりに行い、落ち着いて授業を受けている」が3.79と授業規律の項目が高い。</li> <li>●「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができた」の項目が他と比較すると低くなっており、授業で協働学習を高めていき言語活動を充実することにより「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを更に図る必要がある。</li> </ul>
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	進路意識の向上、体験活動の充実、進路情報の提供が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路目標の早期決定と早期対策を目指す。</li> <li>○職業観・勤労観の育成を図る。</li> <li>○タイムリーな情報発信と閲覧環境の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路別の進路講座・講演会を実施する。</li> <li>・インターンシップや体験型イベントへの参加を推進する。</li> <li>・オンラインを活用した資料閲覧環境のさらなる改善に取り組む。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○6月7日を「進路の日」とし午前は到達度テスト、午後は進路講演会などを全学年で実施した。新しい取組として熊本県庁出前講座を活用した。</li> <li>○昨年に引き続き5日間のインターンシップを2学年全体で実施した。</li> </ul>
	進学指導の充実	多様な進路希望実現に向けた進学支援体制が充実している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年生卒業予定数に対し大学進学率15%以上を目指す。</li> <li>○新教育課程による新しい大学入試への対応を講じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型選抜、学校推薦型選抜入試への対応と個別指導の充実を図る。</li> <li>・生徒のポートフォリオ作成支援体制の充実を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小論文対策・面接対策・過去問対策など個別指導の充実を図ることで、国公立大学に3名、私立大学に22名が合格した（1月現在）。大学進学率17%で、今後9名が一般入試等を受験予定である。</li> <li>●「進路のしおり」の巻末にポートフォリオ用紙を掲載し利用を促したが、担任任せで徹</li> </ul>

						底しなかった。
	就職指導の充実	県内企業就職率の向上、就職意欲の高揚、内定者への指導が行われている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○希望就職内定率１００％、県内就職率７０％以上を目指す。</li> <li>○効果的な企業情報の収集と担任及び生徒・保護者への提供を図る。</li> <li>○就職する生徒の社会生活への円滑な移行と早期離職防止策を講じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者の適性の早期把握と事前指導の充実を図る。</li> <li>・しごとコーディネーター兼キャリアサポーターとの連携をさらに強化する。</li> <li>・新社会人セミナーの活用など内定者へのフォローアップの徹底を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○希望就職内定率９７％（今後受験手続中の２名が内定すれば１００％）</li> <li>○県内企業内定率６０％、就業地が県内の就職率８８％</li> <li>○「HANDY進路指導室」（昨年度から導入）の機能と操作性が向上し、更なる事務負担軽減と求人票の閲覧環境の改善に繋がった。</li> <li>○キャリアサポーターと緊密に連携し、不合格者や他の志望から就職へ転向した生徒への指導が丁寧にできた。</li> </ul>
生徒指導	規範意識の醸成	基本的生活習慣の確立と規律ある行動が身に付いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶の励行と、遅刻者を昨年度の８０％に減らす。</li> <li>○特別な指導の件数を昨年度の８０％にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・８時３０分から教室での学習をスタートできるように全学年共通で指導する。</li> <li>・「すぐる」を利用して、生徒指導に関する取り組みや資料を配付し、家庭での見守りの強化を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○着席目標を８時２５分に設定し昇降口や教室での指導を重点的に行ったことで遅刻の減少につながった。</li> <li>○防犯等の資料や学校の取り組みを配信し、集会等で自制の大切さを講話した。特別な指導は昨年度の３３％と減少した。</li> </ul>
	交通安全意識の高揚	交通マナーの向上と交通事故・違反の減少が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヘルメット着用義務化に向けた規則作りを行う。</li> <li>○原付通学者の違反や事故を起こした際の適切な行動がとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会や交通委員会を中心とした啓発活動や講演会を実施する。</li> <li>・原付通学生への指導は、交通安全に関する動画視聴や関連資料をもとに加害者になる可能性について理解させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交通委員によるヘルメット着用の啓発や外部講師によるヘルメットの重要性について講演会を行った。</li> <li>●原付の運転に関する動画を視聴したり、外部講師による講話を行うなどして違反や事故は減ったが、無断で中型免許を取る生徒が複数いた。</li> </ul>
	自主性・社会性の育成	生徒会や部活動が充実している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア活動への参加者を昨年度比１２０％にする。</li> <li>○学校行事の生徒会運営割合を増やし、主体性を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の提供をすぐるやクラスルームで周知し、参加希望者を増やす。</li> <li>・既存の行事に加え、新しい取り組みを企画し、新しい御船高校の流れを作ることで生徒の主体性を高める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアの告知にすぐるやクラスルーム、教室掲示や校内放送など周知方法を増やし、参加者は１６３人（昨年比１６９％）に増えた。</li> <li>○体育祭や龍鳳祭における生徒会の役割の大きさは年々増えつつある。新しい行事は増えなかったが、生徒朝会の充実などが見られた。</li> </ul>
人権教育の推進	人権意識の高揚	人権問題解決に向けた実践力を持つ生徒・職員が育成されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育ＬＨＲ・職員研修の充実を図るため、これまでの取り組みを見直し再構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県人権子ども集会の視聴を実施する。</li> <li>・教職員の部落問題に対する理解を深める研修を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予定通り行事を実施した。職員研修は人権同和教育課指導主事による研修を実施。</li> <li>●次年度の職員研修テーマ設定についてアンケート調査を行いたい。</li> </ul>
	命を大切にす る心の育成	自他の生命と人権を尊重する心の育成が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部機関との連携し、生徒の心を動かす講話を選定する。</li> <li>○他者を大切に思う人権教育を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「SNSの使い方」「自分の長所の発見」などについて学習を深める。</li> <li>・全校集会時に人権教育主任による講話を実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SNSの学習及び人権教育主任講話の時間を使い生徒の感想を伝えることで、人権意識を高めることができた。昨今のSNSを取り巻く情勢が厳しくなったため、さらなる慎重な学習が必要である。</li> </ul>
いじめの防止等	いじめの未然防止	他人を思いやり、いじめを許さない態度が育成されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめを未然に防止する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さなトラブルがいじめに発展しないよう、コミュニケーションを円滑にするソーシャルスキルトレーニングを実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心のアンケート等でいじめが疑われる事案情報を寄せてくれる生徒が増え、未然防止の機能を果たしている。</li> </ul>

	指導体制の確立	いじめ防止対策委員会を核とした組織的取組が行われている。	○いじめ事案について組織として対応し、教育的配慮を踏まえて対応する。	・いじめが疑われる事案について、早期に丁寧な対応を行い、いじめの解消確認、再発防止を図る。	B	○先生方の素早い対応でいじめに発展するのを抑えることができた。また、いじめと認知されたケースも解消することができた。
地域連携 (CS等)	総合型CSを核とした地域連携	地域と連携・協働しながらコミュニティスクールとしての役割を果たしている。	○学校と地域が情報を共有し、役割を分担することで、特色ある学校づくりや学校の魅力化に努める。地域に学校の応援団となっていく。	・前回協議会で提案のあった内容（主に学校の広報や生徒募集、生徒の生活面や交通面）を真摯に検討し、レスポンスし信頼を得る。 ・学習活動やキャリア教育における学習支援体制を構築し、地域人材として積極的な活用を図る。	B	○学校評価アンケートの結果によると各項目で一定の成果があった。地域との連携は、昨年以上に活発に行われた。 ●様々な面で分担や協働を図っていくことが今後の課題である。
特別支援教育	的確な個別の支援	基礎的環境整備と合理的配慮の提供を実践している。	○生徒の困り感を見逃さず、適切な支援を行う。	・巡回相談を活用する。 ・教科担当者間で生徒情報を共有し全職員で支援の在り方を検討、実践する。	B	○巡回相談を活用し、困り感に寄り添った支援ができた。また、教科担当者会を行い生徒の支援について情報共有を行った。
環境保健	健康管理・健康教育の充実	自己管理意識の向上、心身の健康支援が図られている。	○生徒の既往歴や持病を把握し、職員内で共通理解を図る。 ○感染症の流行を防ぐ。	・行事前健康面談の実施、検診結果や保健室来室生徒への個別指導や支援を行う。 ・健康観察を徹底し、感染予防を啓発する。	A	○行事前の健康面談、個別指導を実施の上、職員と共有し事故防止することができた。 ○健康観察は概ね目標を達成。感染症は大きな流行はなかった。
	環境整備	環境衛生・エコ実践向上、安全管理が図られている。	○環境美化やエコについて意識し行動する。 ○校内の施設、設備の安全管理を徹底する。	・美化コンクールを実施する。 ・ごみ分別を呼びかける。 ・安全点検を実施し、事務と連携して早急に対応する。	B	○安全点検は提出率が上がり、事後措置まで適切に行うことができた。 ●廊下に、綿ごみが落ちているのが散見された。

#### 4 学校関係者評価

令和6年度学校運営協議会委員の皆さまからいただいたご意見は次のとおりである。

- ・素晴らしい取組を生徒さんと一緒に進めている学校と感じます。交流するようになり、それがよく分かります。文化祭では生徒さんが明るく元気で、先生方と生徒さんが一緒になってつくり上げている姿が見られ好印象でした。今後も交流を重ねていけたらと思います。
- ・学校行事や各種イベント等を観て、生徒達がいきいきと活動し、創造的な意見をもっていることに感心しています。熊日新聞や御船町広報紙等でもその一端を知ることができます。校長先生を中心に各先生方の指導が、生徒たちに浸透していることだと思えます。
- ・学業、部活動など各方面で更なる生徒の活躍と情報発信による学校の知名度アップを期待しています。御船町にある学校として地域とのつながりを密にし、地域に信頼される学校になるとともに、生徒自身も地域に愛着と誇りをもてるような体験活動（例えば、町、地域団体、企業などと連携した企画提案や商品開発など）ができればと考えます。
- ・今年度テレビや新聞で生徒さんの活躍をしばしば目にしました。素晴らしいと思います。これは学校にとっても嬉しいことですが、地域にとっても誇らしいことです。ロボコン、マイコンカー、美術、書道、音楽など、御船高校には素晴らしい資源があるので、より一層磨き高めていただけたら嬉しく思います。
- ・学校紹介動画や公式キャラクター（ミフネコ）などを考案され、メディアを利用して情報発信もされています。更なる展開を望みます。

#### 5 総合評価

学校経営全般においては各学科・コース、学校行事等の充実が図られ、学校の魅力発信や生徒募集へ向けた取組も活発に行われた。具体的には今年度、工業や芸術の生徒の活躍が目覚ましく、生徒会を中心とした学校のPR活動、ボランティア活動、地域連携活動等も活発に行われた。また、これら本校の強みや学校の魅力を精力的に情報発信してきた。その結果、テレビや新聞等のメディアに数多く取り上げられ学校全体に活気が生まれた。この側面には、生徒と伴奏する職員の熱心な指導があり、学校全体が機能し前進していることは評価できる。

学力向上においては、授業のユニバーサルデザイン化、ICT化、体験的な学びの充実に力を入れ各教科で推進が図られた。また今年度からオンライン学習教材等を導入し個別最適な学び、協働的な学びを進めている。

キャリア教育については、生徒が自らの可能性や適性を理解し主体的に進路選択できるような指導体制を充実させてきた。進学・就職面においては（未だ進行中だが）概ね目標達成することができた。

生徒指導・生徒支援においては、教育的視点から生徒の立ち直りを期した適切な指導、生徒の状況に寄り添った丁寧な支援が行われている。いじめ防止についても未然防止の取組、発生後の組織的な情報共有、早期対応が図られ、いじめを最小限に食い止める取組がなされてきた。また人権教育推進委員会を週時程に組み込むなど充実を図り、自他の生命と人権を尊重する心を醸成したり他者を思いやる心を育てたりする取組を実践してきた。

#### 6 次年度への課題・改善方策

学校経営全般における今後の課題は、生徒数の減少を食い止め（入学希望者数を増加させ）生徒募集へ繋げていくことである。そのためには、今年度の取組をさらに推進し活気ある学校風土や地域に信頼される学校の姿を整えていくこと、地域及び関係機関と一体になって魅力ある学校づくりに取り組むこと、これらが両輪として駆動することが重要である。今後、中期的な視点（3年程度）で計画的に推進していくことが必要と考えられる。具体的には、現在取り組んでいる学校ビジョン（本校のグランドデザイン）を早期に形にして、職員が自らの役割を自覚し教育実践に当たるとともに、学校が生徒・保護者、地域及び関係団体と意思を共有しながら教育活動に当たることを実践したい。

学力向上の方向性は、現在の取組をさらに推進する必要があるが、今後DXハイスクール採択校としてデジタルを活用した探究的、文理横断的な学びの実践が求められる。現在、総合的な探究の時間について、データサイエンスを含む内容の再構築へ着手しているところである。

キャリア教育について、生徒がキャリアパスポートを生かし、主体的に進路選択していく指導を行うことが課題である。進路指導体制を含め組織的に取り組んでいく必要がある。

生徒指導・生徒支援において、本校には多様な生徒が在籍し課題を抱えた生徒も多く、かつ内容も多種多様である。引き続き丁寧な指導及び支援を実現していくことはもちろん、各事案においての初動対応（情報共有及び報連相等の徹底）や発生後の組織的な対応、外部機関との連携がより緊密かつ適切に行われるよう改善を図りたい。